

て、無駄な横向き面を小さくすれば良いと言
う考えが浮んできます。最も簡単に手頃なも
のとしては魚箱にコンクリートを流し込んで
作る直方体が考えられます。このようなプロ
ツクを自分達で作つて投入している所もある
と聞いていますが、その実際が良く調査され
ておりませんので、はたして効果があるかど
うかは今ここでのべることができません。た
だし、注意しなければいけないのは、極端に
平面部分を多くし、高さを縮めると、かえつ
てコンブが着き難くなるということもあるよ
うです。また従来の円筒型プロツクの例でも
判るように一個に何百本も着いても実際に利
用できる良いコンブはそのうち何分の一かに
過ぎません。浜中では一個に平均五—一本着
生していても良いコンブは七九本でその割合
は一五・五%にすぎないという例もあります。
それで一個あたりに着生するコンブをあまり
多くするよりは、着生数は少なくても、それ
らができるだけ良く生長できるようにするこ
とも考えなければいけません。またコンブは
漁場の地形にもよりますが、ある程度の高さ
がないと着生率が悪くなることも確かです
から、無駄だとは思つても地形に合った高さ
を保つことも必要なことと思ひます。このよ
うな点を考慮して、色々な型、大きさのプロ
ツクを開発していく必要があると考えます。

四三年度は高さ三〇cmの円筒型プロツクにつ
いても十分に調査し、従来の六〇cm型円筒ブ
ロツクとの比較を試みたいと思ひます。

水産における流通と加工部門の一考察

三二 村 英 一

スケソウダラの全国的な漁業生産高は、北

ます。

転船、母船式などにより増大し、本道の沖合
沿岸漁業のスケソウダラの魚価維持対策、処
理加工対策、流通の拡大などについて水産に
関連ある各機関が各々の立場を通して真剣に
検討しています。これは漁業生産物を人間生
活に有効に活用を図るとともに水産業の経済
性を高める努力であると思ひます。特に感ず
ることは、漁業生産と経済性はもはや自己の
前浜の問題ではなく、広い視野に立たなけれ
ばならぬわけです。

水産物の流通の円滑化にはその欠点を補う
ことが必要で、そのために処理加工分野があ
るわけです。その主な事柄は、

一、生鮮漁獲物の鮮度保持
二、変質腐敗防止の貯蔵性の付与
三、需要者の嗜好性への適応
四、有効成分の抽出活用化
五、輸送の簡素化

などその他色々なことがあると思ひますが、
要するに経済性を高める役割をする分野と思
ひます。道東地域(釧路、根室、十勝の各支
庁)の水産業を昭和四十一年度の北海道水産
現勢から私なりに調べてみますと、漁業生産
と加工生産を数量的にみると、

昔から大漁貧乏といわれた漁業には、ニシ
ン、イワシなどがあり、近年では道東のサバ
や沿岸の養殖ワカメなどもこの中に入っている
ではないでしょうか。今までは漁業生産の向
上は直ちに経済性の向上と思われがちで、漁
獲の努力は人一倍しますが、生産物の流通に
は関心が薄く、他人任せではなかつたでしょ
うか。今一度反省してみる必要があると思ひ

	十勝	釧路	根室
漁業生産額	三,〇〇〇 t	二,八六〇 t	二,〇三六 t
加工原料数	二,四五〇 t	二,六二〇 t	一,七九〇 t
比	一一六%	九二五%	八四%

(加工原料数は歩留からの換算、調味加工品、調味漬物、塩から、佃煮、コンブ加工品、魚油類など二次的副産物的な製品は除く。)

以上のような数字で十勝支庁は漁業生産より加工生産が多く原料魚の移入と考えられ、釧路、根室の各支庁は原料の供給地と考えられます。それでも漁業生産高の八五〇九〇%は何らかの形で処理加工されて流通機構につながっている、この分野がなければ、水産業は当然経済的には成立しないといつても過言ではないでしょう。したがって大きなウエイトを占める処理加工に対しても、漁業生産への向上の努力とともに並行して大きな努力がはらわれていかなければ水産業の発展は望まれません。又、水産加工などの生産品がその時代に適し、その価値を向上させるためには関係機関共々流通分野の調査検討を経て生産品の開発を計ることが必要と痛感します。

新鋭試験調査船

北辰丸 進水

三月十四日、待望の新鋭試験調査船が室蘭の檜崎造船所で進水しました。

船名は全道の小・中学生より募集し、応募件数五〇八件の中から、上川郡下川町立菱光中学校一年生の笹原典子さんの北辰丸(ほく)

しんまる)が入選しました。

北辰とは、北極星を意味し、北方における指標であり、また道旗の表徴である七光星を連想し、開道百年を迎え希望に輝く本道の未来を象徴します。本船が漁業の試験調査を行うじて本道漁業に対する指針を与える意味においてこの船名が選定されたわけです。

本船は総トン数約二二〇トン、中速ディーゼル機関一〇〇馬力、最高速度一三・五ノットで、レーダー、ロラン、デツカ、方探、魚探、無線および遠隔自動操縦装置など近代的全の航海設備をもつほか、船尾式トロール、流網、延縄、棒受網、自動イカ釣機、冷凍装置等あらゆる漁業の試験調査も可能な漁撈装置を有します。

また水温、塩分、流速、流向や底質、プランクトンの状態など、海洋について多面的な観測が可能で、魚体調査設備や飼育槽を備えた調査室もあり、まさに浮ぶ研究室といえます。

これからは、サケ・マス調査をはじめとして、その名に応わしく、縦横無尽の活躍をすることに なります。皆様の絶大なご支援をお願いいたします。

おねがひ 標識放流魚について

漁業資源部

魚の分布、回遊を知るために、サケ、マス、ババカレイ、ケガニ、スルメイカなどに標識をつけて放流しております。みつけた方は、漁業協同組合か当水試に、月日、場所、大きさを記入して届けて下さい。

サケ・マス 四月〜七月 約一万尾

道東と東経一六〇度の海域
ケガニ 三月下旬 広尾沖 二千尾

〃 〃 〃 〃 〃 〃
鉦路沖 百尾
七月〜八月 厚岸霧多布沖

ババカレイ 十月〜十二月
スルメイカ 八月〜十一月

以上

鉦路水試だより 第12号

発行月日 昭和43年3月

編集発行人 福原 吡

発行所 道立鉦路水産試験場

鉦路市浜町十六

印刷所 鉦路総合印刷株式会社